

市民談話室

私の生きがい

老後も夫婦で楽しめる趣味を持ちたい

青山好美さん（茨城県・主婦）

「あなたの生きがいは」と聞かれても、私にはまだ「これが生きがいです」と言うものを持ち合わせていないのです。子供たちも成人して、親の手元から離れて行った今、自分の時間が多くとれるのに意気込みばかりで……。

母を亡くして思う

年老いても若者から愛されたい

中村リウさん（中山・主婦・43歳）

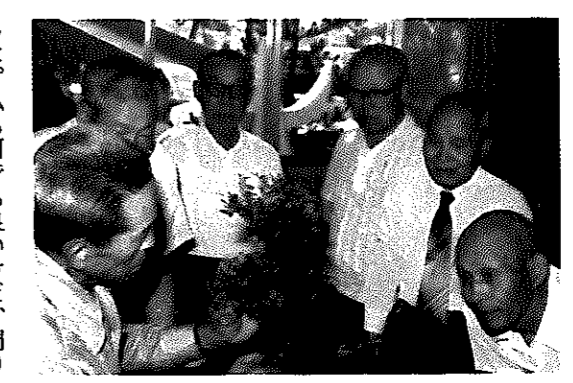
話はずんずんしていると、老夫婦が「みなさん、よろしかったら恥ずかしいけど、演奏をお聞かせしましょうかね」と、楽器をもってこられました。おじいさんは

ある日の朝、リリオンと電話が鳴り、病院から「母、危篤」の知らせであった。私はすぐ車で病院に向かった。車中では「母は死なない。死ぬもんか」と、頭の中を

うずまいた。病院に着いたときは、すでに帰らぬ人となっていました。でも、とても信じられなかった私にとって、そのときは涙も出ませんでした。

世界的な不景気で、失業者の増大が報道されています。日本も決して例外ではありません。そのため、数えきれない企業倒産や、農業都市白根も、減反転作などにより収入減で悩んでいます。

慶事の際の祝い金は一万円とし、願主も一人当たり一万円であるような接待を行い、葬儀の際も、香典は最小限に切り詰め、花環なども廃止して、できるだけ簡素にすませたいものです。



盆栽作りに情熱を注ぐ老人たち

母が亡くなって、五年余りになります。母の生前の数々の思い出をかみしめている今日このごろです。母は新聞を読むのが好きで、その中でも運勢占いを見るのがとても好きでした。子供や孫の生年月日を覚えていて、「〇〇は、今日は悪い日だから気をつけなさい。〇〇は良い日だよ」と言っていて心配してくれた母でした。

もなく照らし続けてくれた母、その母の愛情の厚さを、今改めて痛感しています。

華美に流れる虚礼廃止を市民ぐるみで

長沢一衛さん（戸石新田・無職・74歳）

暮らしの見直し

投稿ください 市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽に寄せてください。採用分には薄謝を差上げます。ページの都合で、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根二三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。

まちのわだい



元気いっぱい新1年生 戸頭小学校で最後の入学式

今年、戸頭小学校に入学した新1年生は15人。入学式に、元気良く手を振って入場する1年生に石田校長は「親から離れての集団生活は、時には耐えることも大切です。友だちと仲良く、しっかり勉強しましょう」と激励。4年生全員の「チムチムチェリー」の踊りの歓迎を受けました。

この入学式が最後となる小学校は、戸頭、小林鷺巻、大郷の4か校。来春からは、建設中の大鷺小林の両統合小学校で勉強することになります。

加藤清二郎氏に紺綬褒章



4月16日、名誉市民加藤清二郎氏（東京都）に市長から紺綬褒章が伝達されました。

この紺綬褒章は、同氏が白根小学校へ多額の寄付をされたことで内閣総理大臣から贈られたものです。なお、伝達式には同氏に代わり、長男の健一郎氏が出席されました。

加藤清二郎氏



ゴミの不法投棄は困ります

河川敷、堤防、道路脇などへのゴミの不法投棄が後を絶たず、大変困っています。特に旧半五郎江下流部敷地は、ゴミの山となっています。この旧半五郎江は、大通川改修により幹線排水路としての機能は失っていますが、現在でも暗きよ用の排水路であり、重要な役割をはたしています。

不法投棄は処罰されます。ゴミは決められた日に、決められた場所にお出ください。

▲旧半五郎江に捨てられたゴミの山



サケの稚魚40万匹を放流

「大きくなって、帰ってこいよ」と、信濃川漁協白根支部では4月4日、中の口川にサケの稚魚約40万匹を放流しました。

小舟から次々と放流された体長3～4センチの稚魚は、春の日差しをいっぱい浴びながら、元気よく泳ぎまわっていました。

大きくなって帰ってこいよ